

厚別区連携だより



発行:厚別区幼保小連携推進協議会代表者会

令和4年5月31日(火)、厚別西地区センターを会場に、久しぶりの参集型で、第1回厚別区幼保小連携推進協議会が開催されました。幼稚園5園、こども園9園、保育所12園、小学校13校、参加人数65名で行うことができました。これまで、区ごとに企画して実施してきた形から、今年度より、全区共通の内容で行う形に変更となったことで、より一層、札幌市全体で幼保小の連携・接続や子どもたちの豊かな育ちについて学び合う機会の充実につながるのではないかと思います。

第1回目は、区共通テーマでの全市研修会として、オンラインでの講演会と、ブロック交流の2部制で実施いたしました。講演会中の隣席の先生同士の交流やブロック毎交流会だけではなく、終了後も、各校・園の先生方同士が久しぶりに顔を合わせ、和やかに交流する様子が見られていました。



代表者の平野校長、相良園長からのご挨拶にもありましたように、直接顔を合わせて話ができる良さを参加者の皆さんが実感した時間となったのではないのでしょうか？



令和4年度の幼保小連携推進協議会のテーマ

学びをつなぐ幼保小連携・接続

～幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める～

1. 札幌市教育委員会幼児教育センター担当課より

令和4年度からの幼保小連携推進協議会の体制についての趣旨説明

- ・区幼保小連携推進協議会の目的と10年間の成果
- ・幼児教育の質の向上 幼保小教職員の学び合い、スタートカリキュラムなど今後の課題
- ・幼児期の教育と児童期の教育の理解を深めるための、今年度の連携推進協議会の視点
(「知る」「学ぶ」「つなぐ」) など

※当日配布資料参照

2. 講演会

講師：札幌市立三角山小学校 校長 渋谷 一典氏

演題：「学びをつなぐ幼保小連携・接続

幼保小連携・接続～具体と課題を「知る」



- ・ 「幼児期の教育」と「小学校からの教育」は、教育内容や指導方法に違いはあるが、子どもの発達や学びは連続
- ・ 幼保小連携推進協議会を通して 10 区で連携していくメリットと効果
- ・ 「遊びを通して学ぶ」ということ具体
- ・ 発達や学びをつなぐスタートカリキュラムの具体（「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」での子どもたちの学びの姿から）
- ・ 幼保小連携の成果とこれからの課題 など



3. ブロック交流会

例年通り、5 ブロックに分かれて交流会を行いました。久しぶりの顔合わせとなりましたので、各ブロックのメンバーで、まずは自己紹介。ご自身の園、校でのコロナ禍の子どもたちの変化や、先生たちの悩みをざっくばらんに話したり、前半の、渋谷校長先生の講演会を聴いての率直な感想や新たな気づきを話されたりなど、あっという間の時間でした。交流会で話し合われた内容や感想を抜粋してご報告します。

渋谷校長先生の講演会から① ～幼稚園・こども園 保育所の先生方より～

- ・ 小学校の現場の様子を動画を通じて見るのができ良かった。「つなぐ」ということを学ぶことができ参考になった。
- ・ 幼児教育で遊びの中から学んでいることを小学校の先生方が理解してくださり、また、教科書の学習が中心になっても、自発的に子供たちが学べる工夫を学校がしてくれていることが分かった。
- ・ 幼保と小学校が互いにそれぞれの教育活動を分かり合うことの大切さを、自分の園に戻って、他の職員にも伝える必要があると感じた。
- ・ 「幼虫を育てる」の中で、いろいろな科目につながる学びがあるととらえ、子どもたちが興味のあることを通して、様々な能力を身に付けられるような指導内容になっているのだと思った。
- ・ 小学校とのつながりがコロナで途切れてしまっているが、今日の話聞いて、また様々な形でつながっていけたらと思った。その為にも、保育も子供たちの未来を見据えて工夫が必要だと思った。
- ・ アンケートがその場ですぐに結果を見られるというやり方が面白くてよかった。
- ・ スタートカリキュラムの実際など、もっと時間をとってお聞きしたかった。



渋谷校長先生の講演会から② ～小学校の先生方より～

- ・幼児の教育活動の様子は、なかなか見る機会がないので、映像などで実際に見ることができ、大変参考になった。
- ・遊びを通した学びの姿を見て、いかに楽しく子どもの心をひきつけながら学びに向かわせるかが、特に1年生には大切と感じた。
- ・子どもにとっての遊びは楽しいものであり、楽しさには主体性や意欲が伴う。「このあと、どうしたい？」など、子どもの意思や気持ちをくすぐる投げかけはとても大切だと思った。
- ・小学校生活はゼロからのスタートではない。幼保小の実態をしっかりと把握することが必要だと思う。
- ・スタートカリキュラム=学校教育に慣れさせるためのもの…とらえていた。既存の学校スタイルに合わせるべく小学校側の意図だけで作っていた面はないか、考えさせられた。
- ・幼保小の連携において連続性が一つのキーワードになると思うが、それを達成するための指導方法の工夫や改善が難しいと感じている。まずは、これまで以上に幼保での活動のねらいについて理解していくことが大切だと思った。
- ・QRコードが読み取れず残念だった。直接壁に投影してもよかったのではないかな。



その他 <幼保小の交流等について>

<幼保小の交流について>

- ・コロナ禍で制限がある中ではあるが、互いに交流（職員が見に行く、互いに見合うなど）が、再開できるようにしていきたい。
- ・まずは簡単なことから！（5年生と年長児の交流、運動会の練習など行事の見学、散歩がてら小学校の近くに行ってみる等）
- ・まずは大人同士が情報を共有し合うことが大事。
- ・大人の交流→年長はどのようなねらいで過ごしているのか、互いの話をしてから子どもの交流に取り組むほうが、より実りある交流になるのではないかな。

<引継ぎについて>

- ・幼保からの引継ぎが丁寧で、学級編成にも生かされている。保護者面談、一日入学、要録などを参考にしながらクラス編成を行っている。
- ・特別な配慮を要する子への対応など、連絡会などで、情報共有をしっかりとっていく必要がある。
- ・要録にストレートに書けないことでも、直接話ができる機会があると伝えることができる。
- ・排泄も含め身辺自立や、友達とのトラブルのことなどが分かるとよい。オブラードに包んだ表記でも伝わってくる。



各ブロックの司会、
記録の先生、ご協力
ありがとうございました



運営について

- ・「今回のように、全市一斉に実施することで、より札幌市全体で、同じ目的に向かうことができると同時に、区によつての差も少なくなって良いのではないか」「オンラインを活用しつつ、これだけ多くの参加者が集合研修にかなり近い形で行えたのは今後につながる」など、全市で同じテーマで研修に取り組む意義、オンラインを活用しての研修形態には、多数の方から評価をいただきました。
- ・また、会場スクリーンの画面が小さかったことや印刷資料の文字も小さかったため、見えにくく残念だったという意見もたくさんいただきました。今後の改善に生かしていきたいと思います。

今回の当日資料カラー版を、あつべつきた幼稚園 HP に掲載しております。

トップ画面左側→[研究実践園](#)→[厚別区幼保小連携](#)
→[幼保小連携推進協議会](#)(パスワード:12345)です。

職員の皆さまに配布するなどご活用ください。

※今後の研修資料配布について、業務のスリム化のため、上記 HP から各自ダウンロードしていただく方法を考えております。その際にはご連絡いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ・ブロック交流会では、「互いに顔を見て話せたのは良かった」「自己紹介的なことで終わってしまったので、時間が足りなかった。もっと踏み込んだ話がしたかった」「ブロックをさらに半分にすると一人一人がもっと発言ができ、活発な意見交流になるのでは？」などのご意見やアイデアもいただきました。たくさんの感想やご意見ありがとうございました。

次回の幼保小連携推進協議会のお知らせ

【日 時】 令和4年10月18日(火) 15:00~16:45

【会 場】 厚別区民センター(予定)

【研修テーマ】 第2回の研修会の全市共通テーマは『学ぶ』です。

区ごとのブロック研修会となります。

代表者会で内容詳細について決定後、あらためてご連絡いたします。

